

1 活動名 「新庁舎建設について」 須賀川市**2 調査の目的****(1) 本市における課題**

松本市において、現在、新庁舎建設に向けて歩み出した。市民懇話会で具体的な意見が出されていることや、市議会でも新庁舎建設特別委員会が設置され検討が進められている。市民のための市庁舎として、50年100年先を見据え、松本市にふさわしい建物とするにはどうしたらいいか、これら課題が上がっている。

(2) 調査の必要性

庁舎を建設した自治体を視察し、参考にする必要がある。

(3) 調査項目

建設に至る経緯、計画費用、工夫した点、他

3 調査地選定理由

須賀川新庁舎は、平成29年3月竣工のできたばかりの庁舎であることから選定した。

4 調査結果

(1) 実施日 平成29年8月18日

(2) 出席者 3名 近藤晴彦 上條美智子 勝野智行

(3) 結果

建設の経緯は、平成23年の東日本大震災で庁舎が使えなくなったため、新庁舎建設が急務になった。基本構想は無く、自前で建設計画を策定。市街地開発事業による新庁舎を建設。平成24年11月に基本・実施設計契約（129,083,955円）旧庁舎と同じ敷地内に建設。23,110㎡、面積2,9ha。庁舎導入機能の検討。ワーキンググループを設置。主事・主査で構成（若手職員で）最大のピンチを最大のチャンスに。仮設庁舎を建てて建設までの業務を行った。工夫として、新たな窓口サービス展開→1Fに住民系・福祉系の窓口を集約。包括業務委託→行政でしかできないことは行政で。民間でできることは民間で。人員削減が目的ではなく、コストの削減（5年間で約1億円の削減試算を出している）

(4) 成果・所感等

建設経緯は、東日本大震災で市庁舎が使用できなくなったということで、本市とは違いがありました。若手職員のワーキンググループでの検討や、新たな窓口サービスの導入。包括業務委託は参考になりました。須賀川市は、ウルトラマンの生みの親である、円谷監督の出身地ということで、庁舎前には、大きなウルトラマンの像がありました。これに因み「うけつけのルートがわかりやすくとどけ出を楽に」←ウルトラ窓口と名付けていました。コンシェルジュが窓口で聞き取りワンフロアでできる工夫をしています。

5 政務調査費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 「スタンドパイプ消火資機材設置事業について」と同様